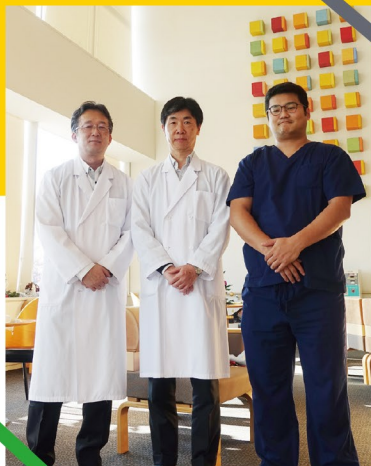




血液内科の仲間たち

翁 家国 医師(中央)、尾崎 勝俊 医師(左)、駒田 登吾 研修医(右)

翁医師からのメッセージ

当院の血液内科は、前任の尾崎勝俊先生から本格的に診療を開始しました。まだ日が浅いためか、友愛記念病院に血液内科があることをご存じない地域の先生方も少なくないようです。特に、ご高齢の患者さんの場合、すべての治療が当院で行えます。治療を迅速に行うためにも、血液の三大疾患が疑われる患者さんは、まずは当院にご紹介ください。



Q 骨髄検査は、どんな検査ですか？

A 白血病などの診断と治療効果の確認、悪性リンパ腫の進行度を調べるうえで欠かせない検査です。前ページの写真のように、私たち血液内科医が診察室で、患者さんの骨盤の骨に針を刺して骨髄液を採取します。それを院内中央検査室の臨床検査技師に渡し、顕微鏡で詳しく分類してもらいます。臨床検査技師の存在なくして血液内科は成り立たないので、検査室のみなさんには、本当に感謝しています。



血液内科医が採取した骨髄液や細胞は、中央検査室の臨床検査技師が顕微鏡検査を行い、残った検体は染色体検査や遺伝子検査に廻されます。

血液内科医と臨床検査技師は、頻繁にカンファレンスを行い、協力して病気の診断に臨みます。「知識と経験を有したベテラン技師のおかげで、チームとしての診断精度が飛躍的に向上しました」と翁医師。



Q 大学病院との連携も重要そうですね？

A 近年、骨髄移植や細胞治療など、完治が期待できる治療法も複数登場していますが、こうした高度な治療は大学病院でないと行えません。そのため、当科では自治医大との連携を深め、治療の幅を広げています。自治医大との連携は、今後もさらに強化していく予定です。

Q 今後の抱負は？

A 今まで非常勤だった尾崎医師が、来年度から常勤医師として当院に赴任される予定です。さらに、自治医大の若い医師も非常勤として、当科に加わってくれる見込みです。医師が増えることで、今後は、みなさんにより一層充実した診療を提供できるようになると期待しています。



臨床検査技師が所属する友愛記念病院の中央検査室。

